

# 「9月までに供給メド」

## ワクチン 首相、ファイザーと協議

新型コロナウイルスのワクチンをめぐり、菅義偉首相は19日、米製薬大手・ファイザーのブーラ最高経営責任者（CEO）との17日の電話協議について、「9月までに我が国の対象者に供給できるよう追加要請し、CEOからは協議を迅速に進めた」と話があった。9月までに供給されるメドが立った」と述べた。

首相官邸で記者団の質問に答えた。

ワクチン接種の対象は16歳以上の約1億1千万人で、政府はこれまでファイザーとの間で年内に約7200万人分の供給を受ける契約を締結。ただ追加供給分については、具体的な数量や自治体への配達時期は明らかにしていない。

ワクチンの政府内の調整を担う河野太郎行政改革相は19日の衆院決算行政監視委員会で、「9月末まで

にファイザー社あるいはその他のワクチンを含め接種の対象になっている国民全員に必要な接種が行える回数を確保するメドが立った」と説明。接種が始まっているファイザーに加え、承認申請中の英製薬大手アストラゼネカと米バイオ企

業モデルナのワクチンも含めて必要な量が確保できるとの考えを示したとみられる。

ただアストラゼネカ製は海外で接種後に血栓ができる症例が報告されており、承認時期は決まっていない。

（坂本純也）

## 歯科医もワクチン接種担当

厚労省 担い手不足 集団会場で

厚生労働省は新型コロナウイルスのワクチンを歯科医師も打つことができるよう特例を認める方向で、調整に入った。医師不足に悩む地域を中心に、ワクチ

ン接種の本格化に際して、担い手が少ないことを懸念する声が出ていた。

歯科医師は、歯の治療のための麻酔などを打つことはできるが、ワクチン接種は医師や看護師だけ

に認められている。厚労省は近く有識者らで構成する審議会の会合を開いて特例を認める案を示す方針だ。

副反応がでた際に医師や看護師が対応できるよう、歯科医師には個別接種は認めず、複数の医師や看護師がいる集団接種の会場に限る考えだ。

歯科医師をめぐっては昨春、PCR検査の検体採取

を担えるようにする期間限定の特例を認めた経緯もある。